

## 進路指導の困難な状況の要因は？

## 「指導時間の不足」と「生徒の進路選択・決定能力の不足」

「難しい」状況は大きく変わらず

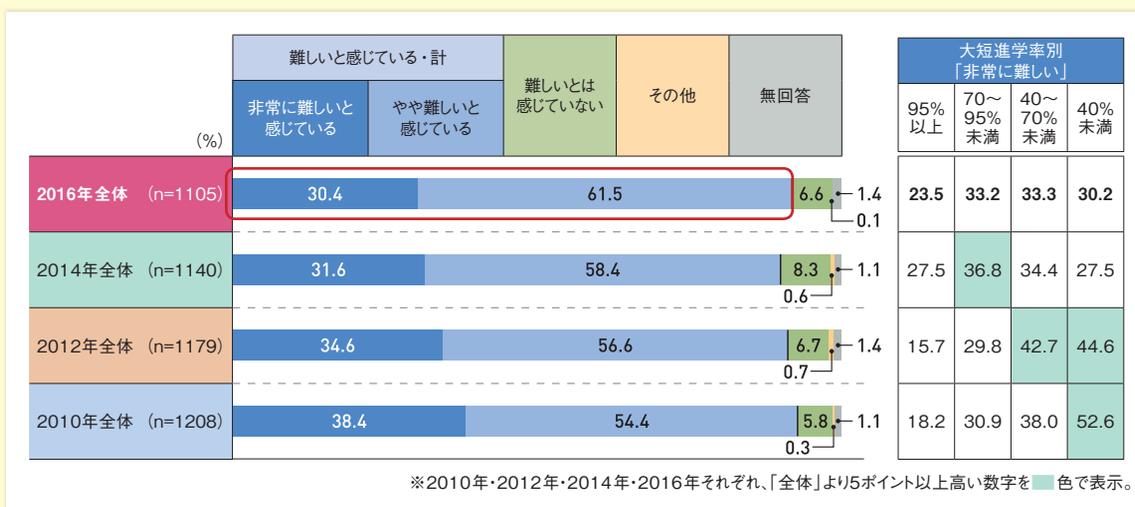
現在、進路指導に携わる先生方は進路指導の難しさをどう感じているか(図1)。「非常に難しい」の割合は10年以降に減少傾向で16年の今回調査では30%であったが、「やや難しい」を合わせると、9割が難しさを感じている状況は依然として変わっていない。

「非常に難しい」の割合を大短進学率別にみると、16年は進学率95%未満の高校が30%と33%で並ぶ。進学率が低い高校ほど難しいという就職環境が厳しかった10~12年の状況からは変化。進学率中位校で高い傾向となり、進路多様校での指導の難しさが表れている。

「指導時間の不足」がトップ  
上位5に生徒要因が2項目  
教育改革の動きなども要因か

進路指導について「非常に難しい」「やや難しい」回答者にその要因をすべて選んでもらった(図2)。トップは「学校」で教員が進路指導を行うための時間の不足」67%、2位は僅差で

図1 現在、進路指導を難しいと感じているか (全体/単一回答)



## フリーコメント 1

## どんな要因が進路指導の困難をもたらしているのか

## 教員が進路指導を行うための時間の不足

- 教科指導、HR指導、部活指導に多くの時間をとられ、個々の生徒の進路指導がなごりになる傾向にある。(静岡県/県立/普通科)
- 近年授業の進め方(アクティブラーニング等)で時間が取られ進路対策が後手に回る。(兵庫県/県立/総合学科)
- 一人ひとりの生徒の進路希望や受験方法の多様さに対応しきれない。(兵庫県/県立/普通科)
- 以前はなかった提出書類や研修が増え、生徒と向き合う時間がなくなった。(千葉県/県立/普通科)

## 進路選択・決定能力の不足

- 周囲に流されて育ってきているため、高卒後の幅広い進路選択において、自分の意志で決めきれなく、教員に頼る傾向が強い。(埼玉県/県立/普通科)
- 自分の適性ややりたいことが十分理解できていないために、悩むだけで先に進まない。(熊本県/私立/普通科)
- 真に自分の事として、とらえられていなく、すべてが受動的であり、動きがぶくなくなっている。(北海道/道立/普通科)
- 情報を適切に選択・研究して結論に向かうことができず、アドバイスを生かすことができない。(神奈川県/県立/総合学科)

## 入試の多様化

- 入試の多様化によって、個人指導のウエイトが高くなり、教員の多忙感につながっている。(香川県/県立/普通科)
- 4月になればAOの指導がはじまり、翌年3月まで国立後期の指導が続く。1年中受験で「教育」ができない。(福島県/私立/普通科)
- 各大学により入試方法、時期がまちまちで学校・生徒も対応が大変な上、一番力を入れて勉強しないといけない時期に振り回されるため、しっかりと実力をつけきれない生徒が出る。(鹿児島県/私立/普通科)

## 学習意欲の低下

- 目標に対して、自ら学力を上げるのではなく、安易な方向へ流れてしまう傾向にある。(鳥取県/県立/普通科)
- 特定の科目に興味関心をもち、深く追求する態度の生徒がほとんどいなくなった。(三重県/私立/普通科)

## 家庭・家族環境の悪化：家計面について

- 学力、人物ともに優れている生徒が、経済的理由で不本意な進路を選ばざるを得ないケースが多い。(千葉県/私立/普通科)
- 母子家庭など片親の家庭が多くなっており、家計が厳しく、進路選択の幅を狭めている。(山形県/県立/総合学科)

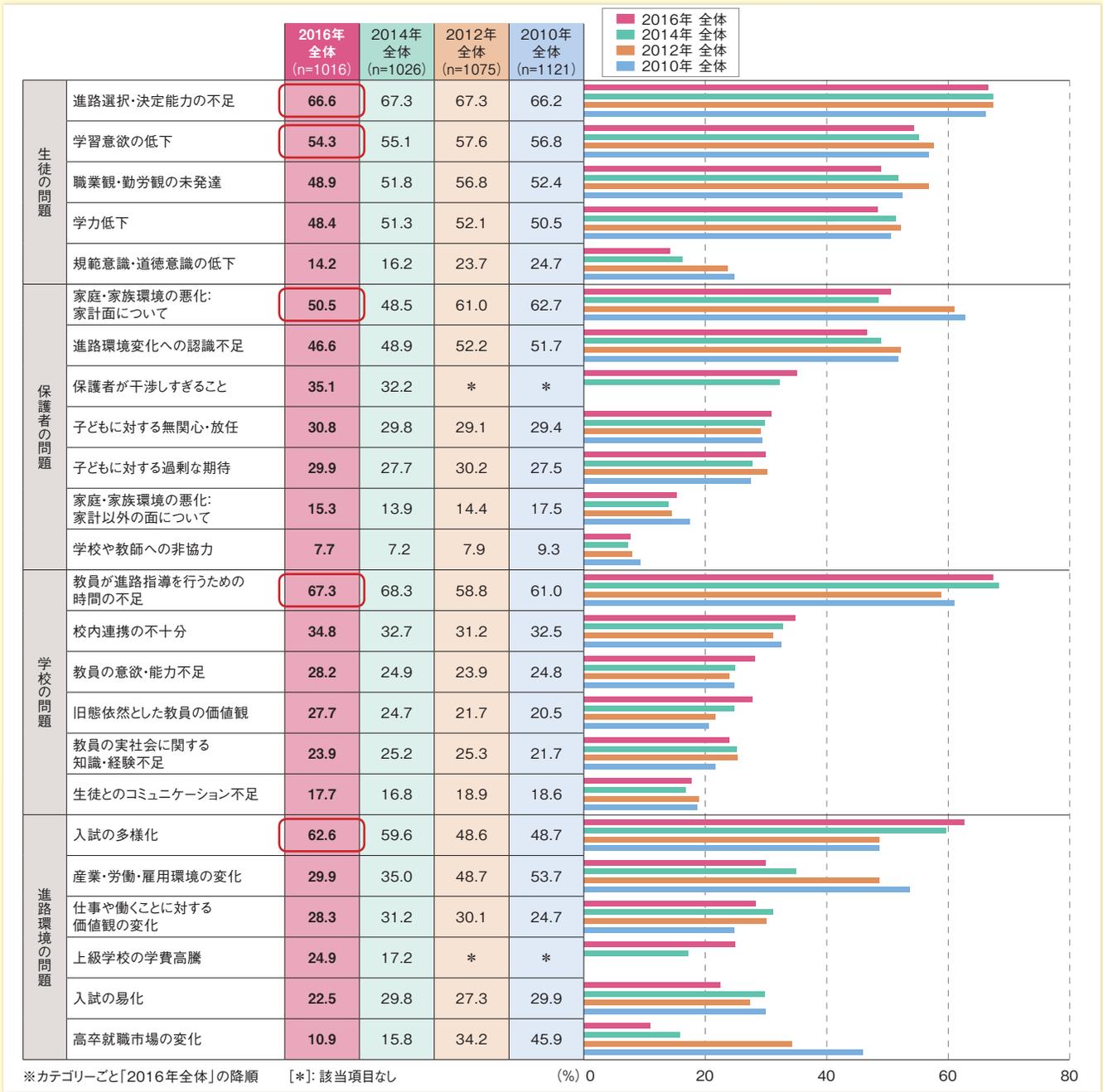
I 進路指導の実態

また「進路選択・決定能力の不足」を筆頭に【生徒】要因項目の上位傾向は変わらず、生徒の状況を困難の要因と感じる教員が多いようだ。しかし【学校】要因の「校内連携の不十分」や「教員の意欲・能力不足」「旧態依然とした教員の価値観」も増加傾向にあり、生徒だけでなく教員側の問題も顕在化しつつある。

前回10ポイント増加した【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【進路環境】「入試の多様化」は、今回も14年と同程度で高止まりのまま。多様な入試に対し生徒一人ひとりに対応する指導に加え、教育改革の流れを受けた新しい取り組みなども加わっていることが多忙の要因にもつながっていると考えられそうだ（フリーコメント）。

【生徒】「進路選択・決定能力の不足」67%、3位【進路環境】「入試の多様化」63%である。以下、【生徒】「学習意欲の低下」54%、「保護者」「家庭・家族環境の悪化・家計面について」51%が続く。  
12～14年の間に10ポイント以上減少した【進路環境】「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」は今回さらに減少し、景況感を受けた高卒就職環境の改善がうかがえる。

図2 進路指導の困難の要因の変化 (進路指導を「難しい」と感じている／複数回答)



進路指導の取り組みと重視項目は？

将来のための進路指導と、入学のための進路指導の狭間で

インターンシップの取り組みは  
大学進学率、高校タイプに差

現在自校で実施している進路指導の取り組みをたずねた(図3)。「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」95%、「進路相談・面接指導・キャリアカウンセリング」91%、「オープンキャンパスへの参加指導」88%、「補習・課外授業・土曜(日曜)講座」86%「保護者向けガイダンス」77%と上位5つはほぼ8割以上で実施。一方「インターンシップの実施」状況は普通科、大短進学率上位校で低く、大きな差がみられる。

インターンシップ実施校に実施期間を訪ねたところ(図4)、「3日間」40%が最も高く、平均すると3.5日。学科別では専門高校や総合学科で、大短進学率別では進学率低位校で期間が長く、じっくり取り組まれていることがわかる。

教育内容を重視する傾向  
一方、生徒の将来への不安も

大学への進路指導で学校選びの際にどのような点を重視して指導され

図3 現在実施している進路指導の取り組み (全体/複数回答)

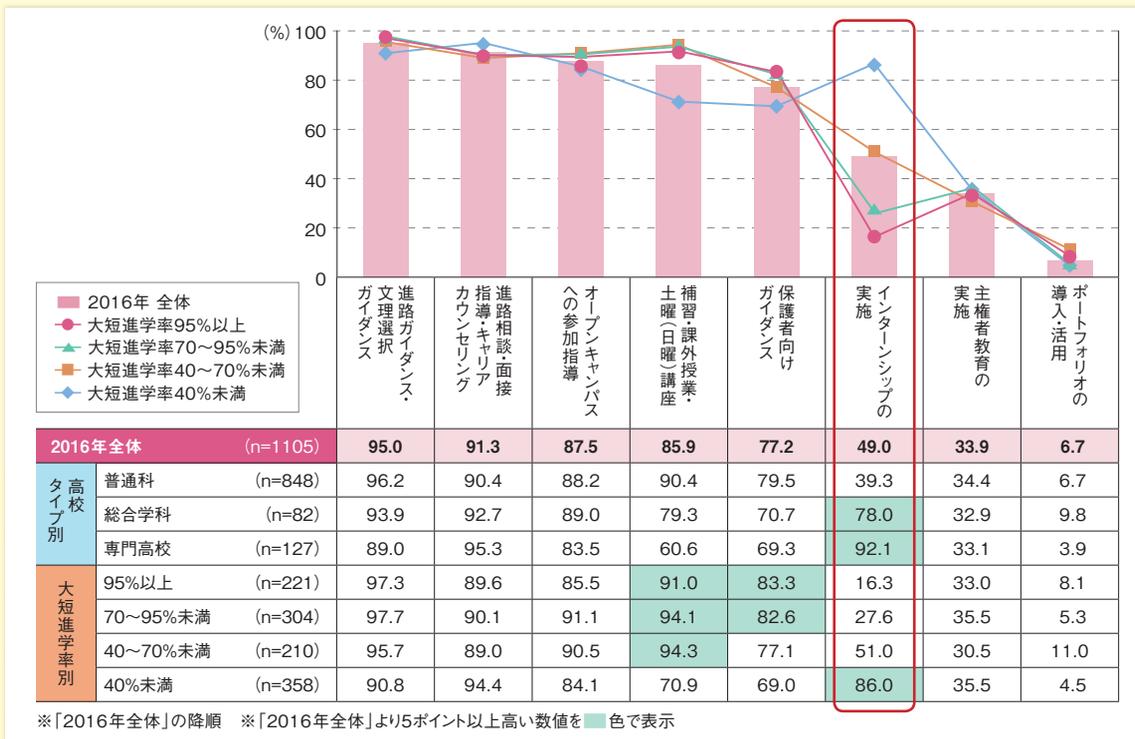
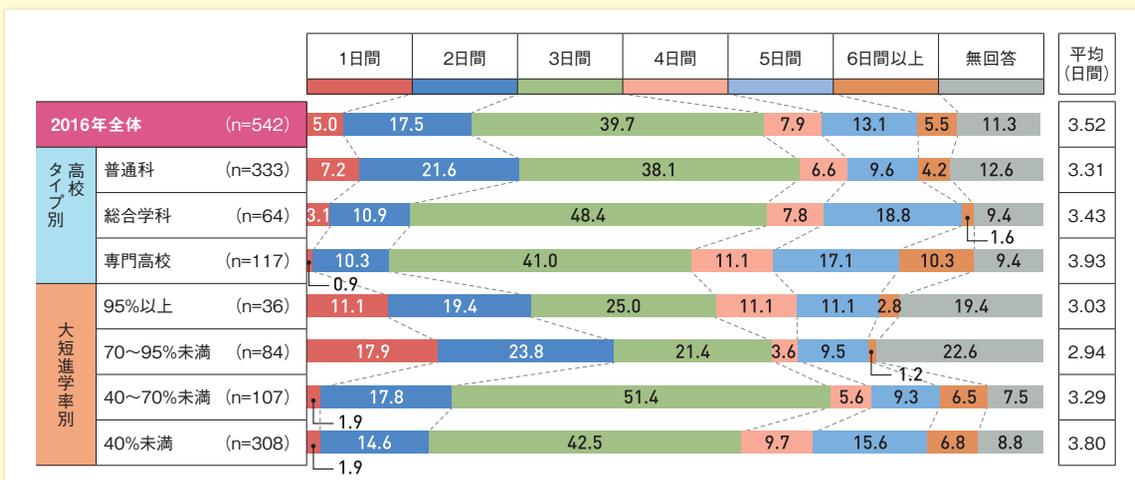


図4 インターンシップの実施期間 (インターンシップ実施/実数回答)

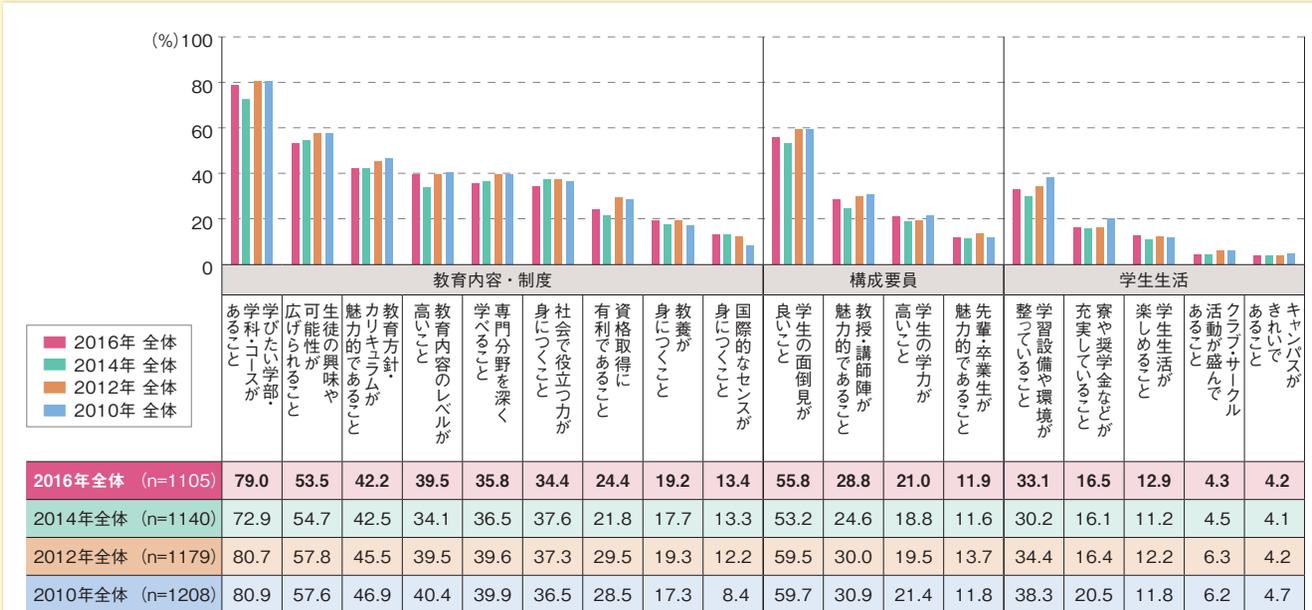


I 進路指導の実態

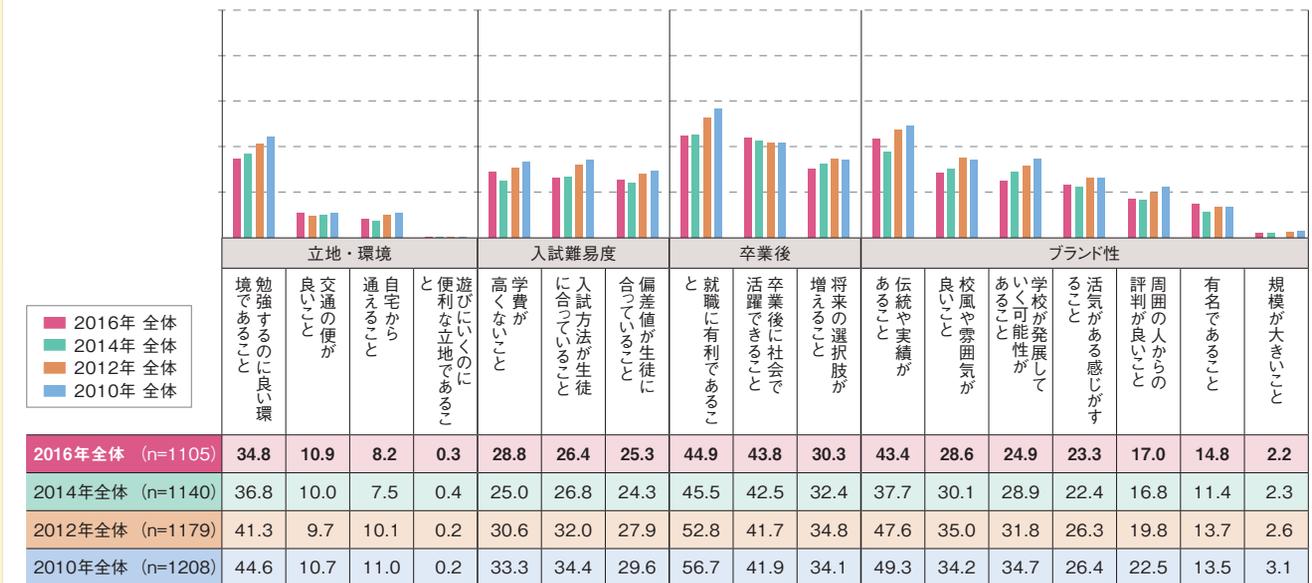
この結果から、大学入学後の生徒への教育を心配する状況が強まりつつあるように感じられるが、生徒の将来を案ずるならば社会とつながる本質的指導が重要となるはず。しかしながら、普通科や大短進学率上位校ではその機会のひとつとなる「インターンシップの実施」の優先順位が低い。「大学合格」に向けた指導に偏重し、その先となる社会に出ることを見据えての指導を、大学での教育や面倒見に頼ろうとしているともいえないだろうか。

時系列変化に着目すると、「ブランド性」「入試難易度」の項目が年々減少する一方、「教育内容・制度」の項目や、「卒業後」「卒業後に社会で活躍できること」、「構成要員」「学生の面倒見が良いこと」「教授・講師陣が魅力的であること」などは前回を維持しており、ブランド性から教育の内実に重きを置く傾向がうかがえる。

図5 進路指導で生徒への進学先として大学のどのような点を重視しているか【時系列】(全体/複数回答)



※カテゴリーごと「2016年全体」の降順



※カテゴリーごと「2016年全体」の降順

キャリア教育の実施状況とその評価は？

97%と広く取り組まれる反面、「教科の時間」は一転減少へ

学校全体、学年全体での  
取り組みがさらに増加

キャリア教育の実施状況と体制を  
たずねた(図6)。取り組んでいる高  
校は14年から10ポイント以上アップし  
97%に達した。取り組み単位をみると  
「学校全体で取り組んでいる」66%、  
「学校全体の取り組みではなく、学年  
で取り組んでいる」24%と14年と比べ  
て学年での取り組みが全体数値を引  
き上げた。キャリア教育のすそ野が  
全体に広がり、組織的な推進がうか  
がえる。

キャリア教育の計画立案担当につ  
いて、キャリア教育の実施校にたずね  
た(図7)ところ、「進路指導部が主  
体で策定」が53%、「各学年が主体と  
なって策定」が23%で続いている。

「教科の時間」は  
前々回調査レベルに後退

では、キャリア教育はどんな時間で  
実施されているのだろうか(図8)。  
1位・2位は10年以降変わらず「総合  
的な学習の時間」80%、「ロングホーム  
ルーム」66%。10年以降上昇してきた

図7 キャリア教育の計画立案  
(キャリア教育実施校/単一回答)

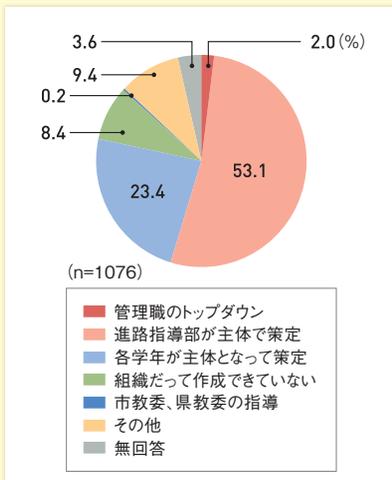


図6 キャリア教育の実施状況と体制 (全体/単一回答)

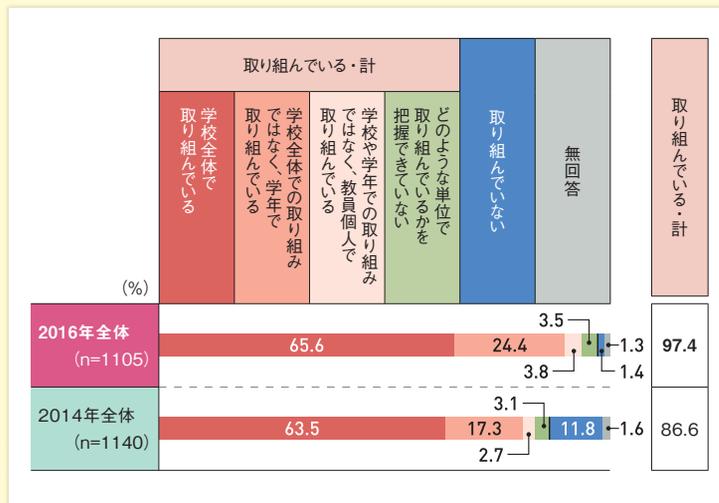
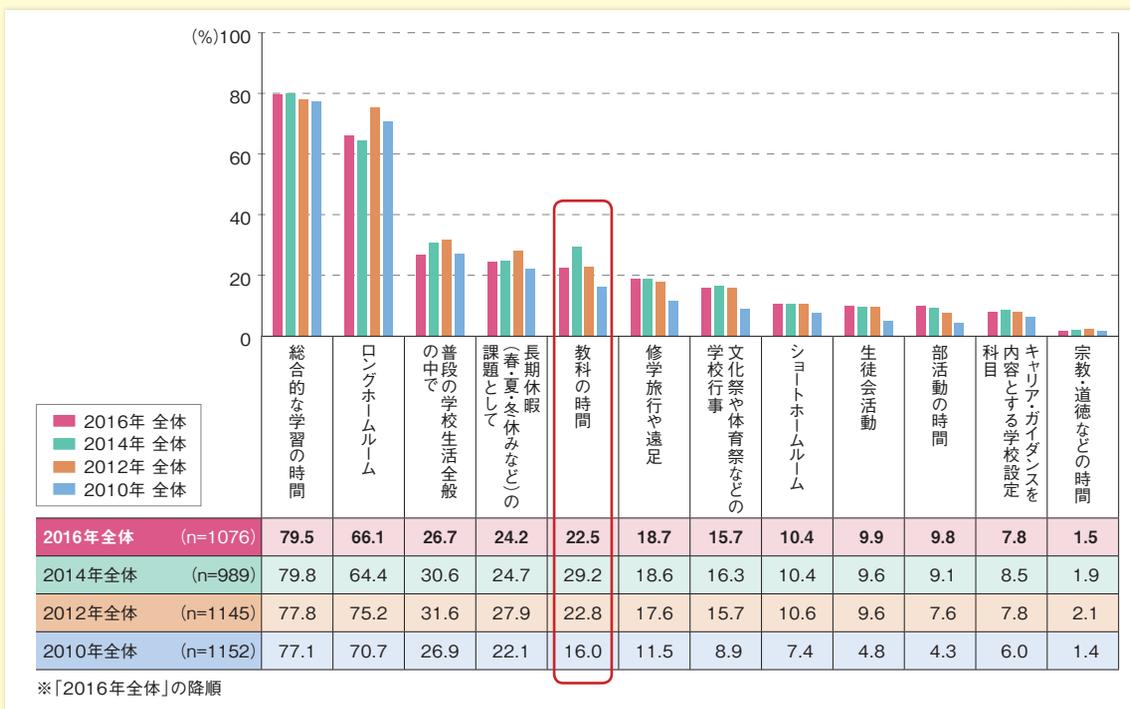


図8 キャリア教育の実施時間 (キャリア教育実施校/複数回答)



「教科の時間」は23%と今回は低下に。「普段の学校生活全般の中で」も前回に続き低下した。日常の教科・生活へのキャリア教育の広がりはやや伸び悩みがみられる。

「評価」の取り組みは微増も半数が今後も実施予定なし

自校のキャリア教育の評価について実施状況をたずねた(図9)。「実施」は16%と、14年より増えたものの、依然として実施率は低い。非実施について内訳をみると(図10)、「評価の方法を検討・研究中」17%、「評価をしたいが、方法がわからない」23%であり、評価方法の準備段階にある学校が4割であった。大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど評価の実施率が低く、評価をする予定もないようだ。評価の具体的な状況や理由をみると(フリーコメント2)、評価になじみにくい、難しいという声がある一方、指標を工夫して設定している学校や、系統的な取り組みの意義を理解する声もある。生徒の成長のためには、目標設定と達成度合いの測定がカリキュラム・マネジメントの観点からも重要であり、評価の取り組みは多くの学校で今後の課題となりそうだ。

図9 キャリア教育の評価の実施率 (キャリア教育実施校/単一回答)

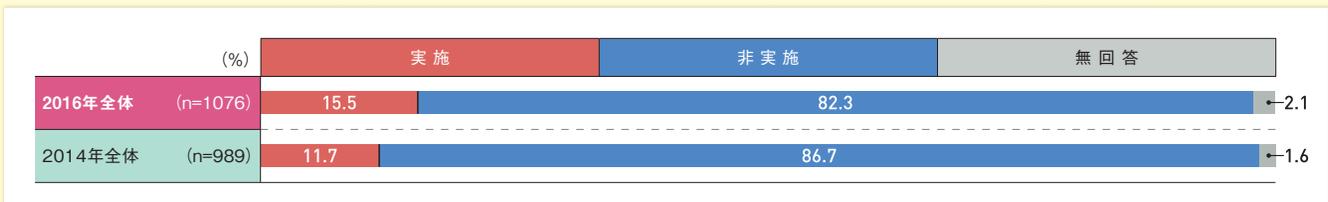
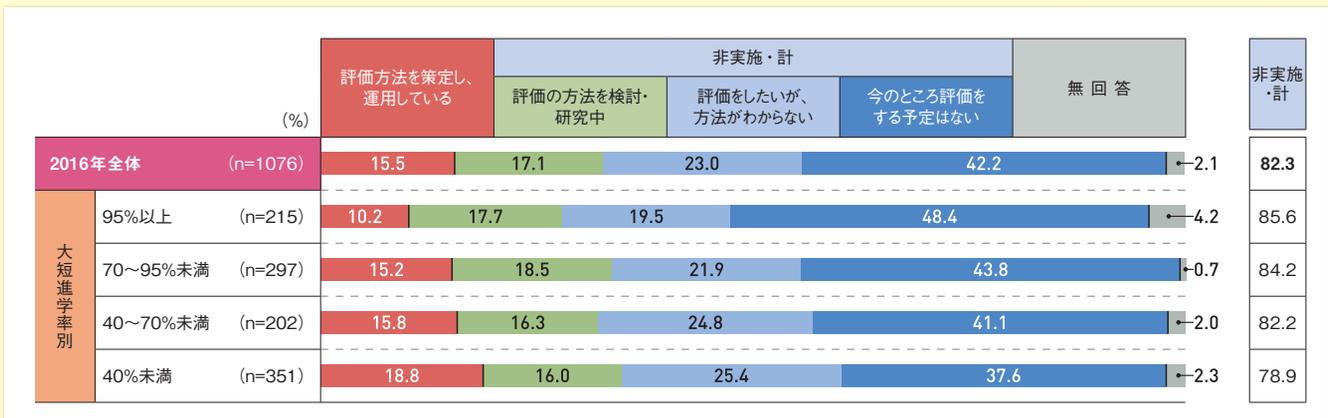


図10 キャリア教育の評価状況 (キャリア教育実施校/単一回答)



フリーコメント 2

キャリア教育の評価の運用状況・検討理由・非実施理由

キャリア教育の評価の運用状況

- キャリア教育の内容に応じて ①ハート力(心の力) ②キャッチ力(とらえる力) ③アピール力(伝える力) ④チャレンジ力(挑戦する力)の4つの指標で評価している。(山形県/県立/総合学科)
- 産業と社会の教科として評定5段階を付けている。(香川県/県立/その他)
- 能力、意欲、実績で項目別に評価し一覧化している。AO・推薦入試対策指導に生かしている。(岡山県/県立/普通科)
- 取組みの姿勢、発展をABC三段階評価。自己の進路研究に活用している。(長野県/県立/普通科)

評価の方法を検討・研究中の理由

- 評価が明確にあることで、教員も生徒もさらに意欲的にかつ系統的に取り組むことができると考えるため。(宮城県/県立/普通科)
- キャリア教育のねらいに対して、どのような力を適切に生徒が身につけることができたかを測るため。(北海道/道立/普通科)
- 高校卒業時の進路が、キャリア教育の全てではないので、進学・就職という進路の中で、どのように評価を下げれば良いのか非常に難しいことだと思います。(栃木県/県立/専門学科:工業)
- 共通の尺度が見つげづらい。(福島県/県立/普通科)

評価をする予定はない理由

- キャリア教育、職場実習、をすでに2年次で実施しており生徒の進路選択に結びつけている。3年次の推薦・AO入試の面接や志望理由書においても、書ける、話せるという段階にまで達しており、有効に機能している。あらためて、評価する必要はないと考える。(山口県/県立/普通科)
- 在校中は、成果が目には見えにくい。(宮城県/県立/普通科)
- 個々それぞれ方向が違うので評価になじまない。(大阪府/府立/普通科)
- 十分な準備をする人員と時間不足。(群馬県/県立/普通科)

キャリア教育への期待と課題は？

約9割が「生徒の役に立つ」。課題は「教員の負担」と「時間不足」

狙いは広く理解浸透  
積極的な実施は進学率で差

自校のキャリア教育が生徒の役に立っているのかをたずねた(図11)。「とても役に立っている」12%、「ある程度役に立っている」77%を合わせ、88%が役に立っていると考えている。大短進学率別にみると、40%未満校では「とても役に立っている」が17%と他に比べて高い。

さらに、今後もキャリア教育に取り組むべきかをたずねたところ(図12)、「積極的に取り組むべきだと思う」41%、「ある程度は取り組むべきだと思う」46%を合わせ、87%が今後も取り組むべきだと考えており、キャリア教育の必要性が認識されているといえる。一方で、進学率別に「積極的に取り組むべきだと思う」をみると、進学率95%以上で34%、進学率40%未満で47%と差が。

イベント型の取り組みから  
日常型への転換が課題

自校でキャリア教育を進めていくにあたり、難しくしている要因として

図11 キャリア教育の役立ち度 (キャリア教育実施校/単一回答)

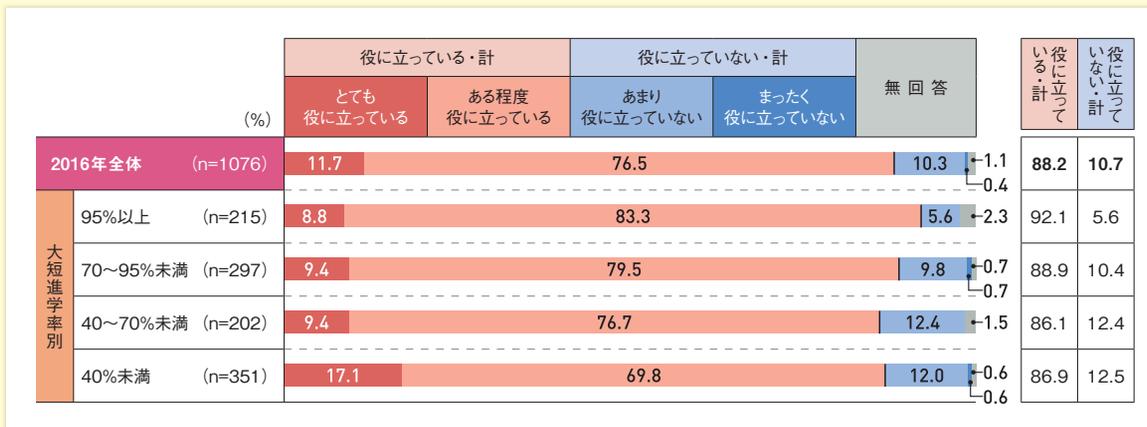
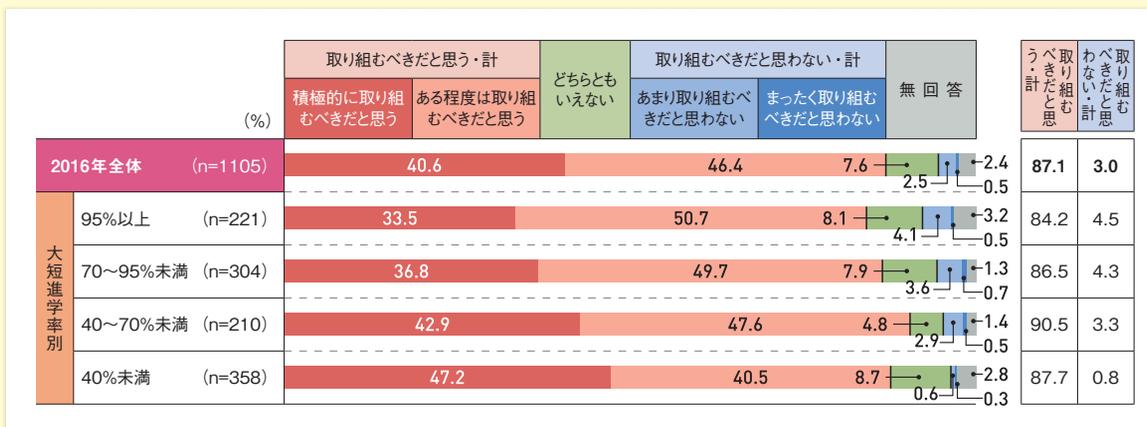


図12 キャリア教育の今後の位置づけ (全体/単一回答)



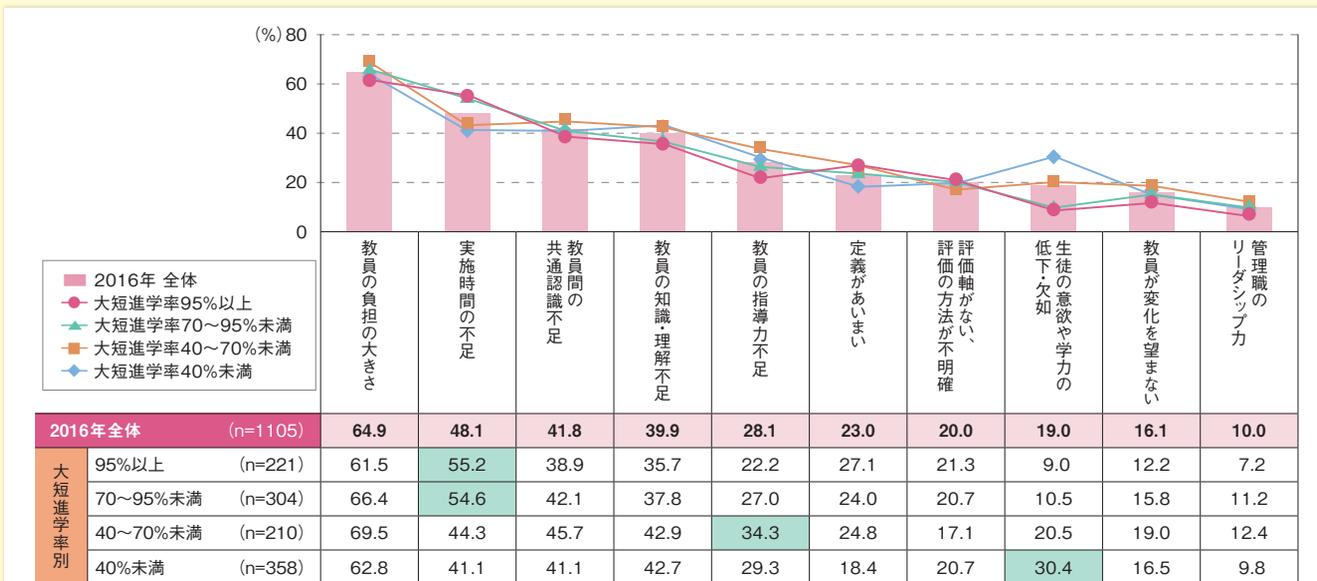
- キャリア教育という言葉は浸透しているが、各々の教育活動の中で、どう取り組めば良いか理解度・意欲に差がある。(沖縄県/県立/普通科)
- 教員の異動が毎年行われるので、統一された(またはレベルを維持した)カリキュラムを組みにくい。(鹿児島県/県立/普通科)
- 進路指導は他人まかせにして自分から力量を上げようとする努力をしない人が多い。(東京都/都立/専門学

- 科: 商業)
- 年配の教員で指導が甘い人が多い。(新潟県/県立/専門学科: 工業)
- 生徒の意欲や学力の低下・欠如
- 生徒が自らのことととらえ、主体的に取り組む姿勢がないと、知識や情報が上すべりし、何も残らない。(滋賀県/県立/普通科)
- 生徒自身の進路に対する興味・関心の低さが目立つ。(千葉県/県立/総合学科)

あてはまるものをすべて選んでもらった(図13)。トップは「教員の負担の大きさ」65%、2位「実施時間の不足」48%、3位「教員間の共通認識不足」42%、4位「教員の知識・理解不足」40%と続く。大短進学率別では、進学率が高いほど「実施時間の不足」が高く、受験勉強との両立が難しい様子の一方、進学率が低いほど「生徒の意欲や学力の低下・欠如」が高い。特に大短進学率40%未満校で生徒の意欲や学力低下意識が高く、キャリア教育の役立ち度や必要性が高い認識だが、生徒自身の側に推進への課題を感じているようだ。

具体的な障害要因をみると(フリーコメント3)、外部連携の負荷や、他行事との兼ね合いによる時間不足など、キャリア教育は「イベント型」という前提が散見される。一方、教員の理解・共通認識不足が障害とする声では「各々の授業でキャリア教育が取り上げられない」「各々の教育活動の中でどう取り組めばいいか理解度・意欲に差がある」など、裏を返せば教員個々が理解できていれば授業内でキャリア教育を行うなど、イベントではなく日常の取り組みに組み込み、時間不足や負荷の問題が解消できるヒントが示唆されている。

図13 キャリア教育を進めていくうえでの障害 (全体/複数回答)



※「2016年全体」の降順 ※「2016年全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

フリーコメント 3

キャリア教育を進めていくうえでの障害の要因

教員の負担の大きさ

- 3年間系統立ててキャリア教育を実施していますが、本来の授業研究・教材研究の時間もほとんど取れず、負担の大きさがあると感じています。(群馬県/県立/専門学科:工業)
- 系統的・段階的な3年間のキャリア教育のカリキュラムを企画、実行、評価するには、ある程度大きな工数と知識が必要となるが、それを専任として担当できる教員がいない。(京都府/府立/普通科)
- キャリア教育の中でインターンシップなど外部との連携活動では、受入先の開拓、事前・事後の指導、準備に多くの時間が必要となる。(岡山県/県立/総合学科)

実施時間の不足

- 時間割が教科数増でびっしり埋まっている。LHRも他の行事、指導との関わり

で進路用の時間も増やせない状態にある。(北海道/道立/普通科)

- 学習時間でさえ確保できていないのに、キャリア教育にかかる時間を増やすことはできない。(愛媛県/県立/普通科)
- 生徒の意識が低いため、浸透させるのに時間がかかる。丁寧に一人一人を見るには、現状では時間が足りていない。(鹿児島県/私立/普通科)
- 大学進学等の目の前の問題に生徒は強く意識をもっていかれている。その中で、結果の見えにくいキャリア教育を行うための時間が足りない。(千葉県/県立/普通科)

教員の知識・理解不足

- キャリア教育は、単なる出口指導であるとしてらえている教員がかなり多いように思われる。(埼玉県/県立/総合学科)

- 進路部の教員が決まった時間に行う進路指導だけがキャリア教育という認識の教員が多い。(千葉県/県立/普通科)
- なぜ、キャリア教育が必要なのか理解できない教員が多い。だから、各々の授業でキャリア教育に関することを取り上げられずにいるのでは?(栃木県/県立/総合学科)
- 市販のワークなどを活用しているが、指導方法にノウハウがなく、試験で結果をフィードバックできる教科と違ってよりよいやり方への道筋が見えない。(福島県/私立/普通科)

教員間の共通認識不足

- キャリア教育の言葉は知っているものの具体的な取り組みとのつながりの意識がなく、うまく機能していない。(愛知県/県立/普通科)
- 各人色々な認識を持っており、コンセンサスを取るのが難しい。(神奈川県/県立/普通科)

これからの社会で必要とされる資質・能力は？

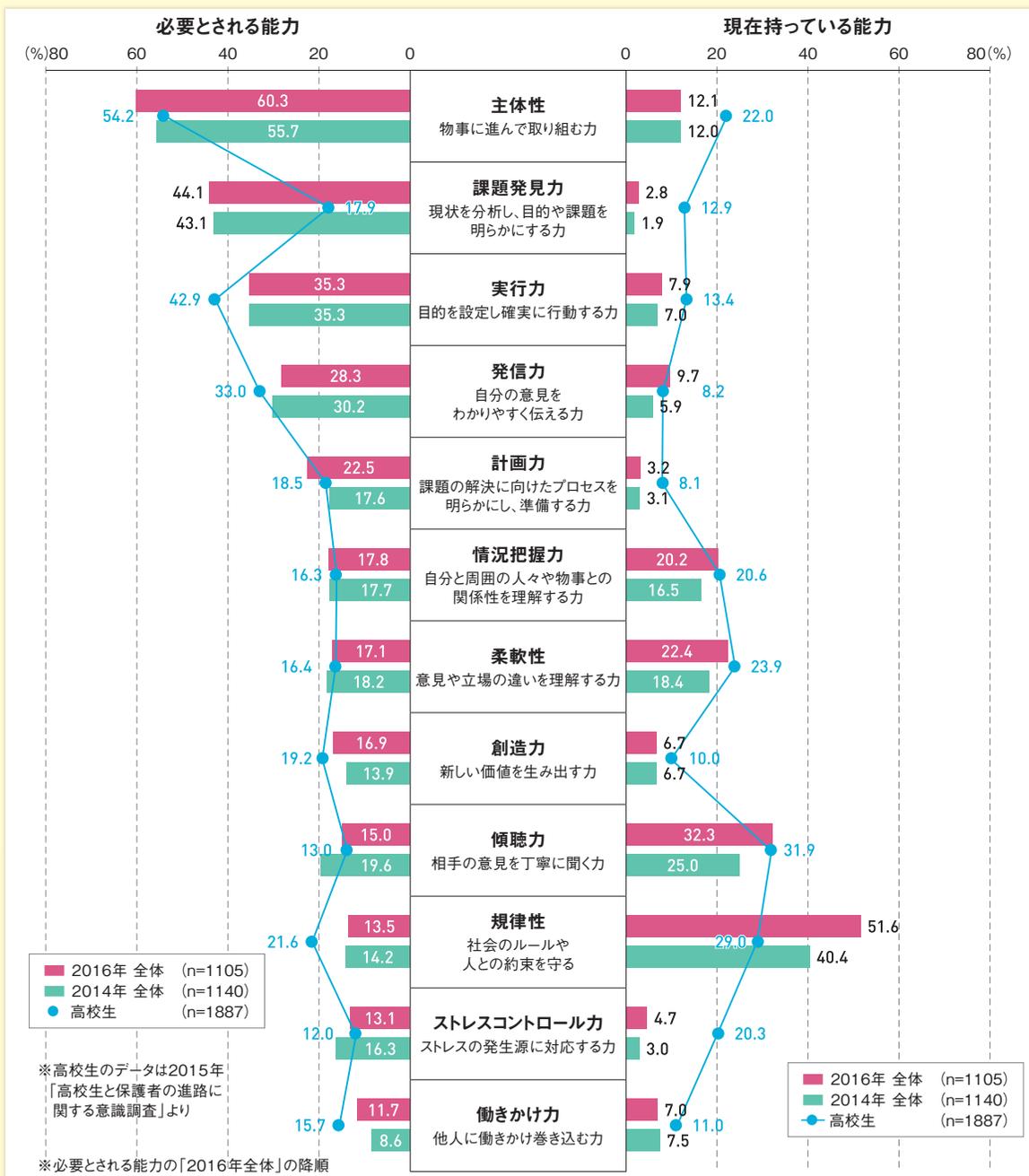
「主体性」「課題発見力」「実行力」に、生徒の実態とのギャップ

生徒が持っている力は  
「規律性」「傾聴力」「柔軟性」

経済産業省で定義されている「社会人基礎力」の12の能力要素のうち、社会で働くにあたって必要とされる能力と生徒が現在持っている能力をそれぞれ3つまで選んでもらった(図14)。必要な能力は「主体性」60%、「課題発見力」44%、「実行力」35%がトップ3。14年と比べると「計画力」が「状況把握力」を上回って5位になり、1位「主体性」はスコアが上昇するなどの変化はあるが、上位はほぼ同じ顔ぶれである。一方、生徒が現在持っている能力は「規律性」52%が突出、「傾聴力」32%、「柔軟性」22%が続く。上位の顔ぶれに変化はないが、スコアを伸ばしている。

必要とされる能力と生徒が現在持っている能力とのギャップをみると「主体性」「課題発見力」「実行力」は差が大きい。このうち「課題発見力」が必要であるとの認識は、教師44%に比べて高校生自身は18%と低く、身につける優先度が低いと思われる可能性がある。

図14 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力



授業改善をはじめ、  
取り組みが動き出す

高大接続改革答申のいわゆる「学力の3要素」のうち、今後注力したい要素を一つだけ選んでもらったところ(図15)、「基礎的な知識および技能」41%、「思考力・判断力・表現力等の能力」32%、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」25%であった。大短進学率別にみると「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」は差がなく必要とされ、他2つは傾向の差が大きい。注力したい理由は、どの能力についても、ロボットや人工知能の進化やグローバル社会の到来、生徒の卒業後を案じた理由となっている(フリーコメント4)。

高大接続の観点での改革の実施状況をたずねたところ(図16)、「すでに取り組んでいることがある」32%、「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」45.6%、「現在は取り組んでいることはなく、今後取り組む予定はない」19.5%であった。大短進学率別にみると「すでに取り組んでいることがある」は40%未満で最も高く、40%未満は「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」も最も高かった。また、「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」は、95%以上の大短進学率別で最も高かった。また、「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」は、95%以上の大短進学率別で最も高かった。また、「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」は、95%以上の大短進学率別で最も高かった。

図15 より今後注力したい学力の3要素 (全体/単一回答)

(%)		基礎的な知識および技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	無回答
2016年全体	(n=1105)	41.1	32.2	24.5	2.2
大短進学率別	95%以上 (n=221)	25.3	48.0	24.0	2.7
	70~95%未満 (n=304)	31.3	42.4	24.7	1.6
	40~70%未満 (n=210)	45.7	28.6	23.8	1.9
	40%未満 (n=358)	56.4	15.9	25.4	2.2

#### フリーコメント 4

##### 学力の3要素「注力したい理由」

###### 基礎的な知識および技能

- 基礎がないと思考力、判断力、主体性も育たない。(奈良県/県立/普通科)
- 無知のままでは多者と協働できるとは思えない。(大阪府/府立/普通科)

###### 思考力・判断力・表現力等の能力

- 学力は備わっていても、それを正しく判断し、表現することができなければ使えないものから。(愛知県/市立/普通科)
- 今後、人工知能が様々な職業に活用される中、創意工夫ができる人材が望まれると思われるので。(石川県/県立/専門学科:工業)

###### 主体性を持って協働して学ぶ態度

- グローバル化する社会の中で自立して生き抜いていくためには、世界の多様な価値観を認め、共に行動できる能力が必要と考えるから。(大阪府/府立/普通科)
- 全ての仕事は人との関わりの中で行うものであるから。(群馬県/県立/普通科)

図16 高大接続の観点での改革の実施状況 (全体/単一回答)

(%)		すでに取り組んでいることがある	現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある	現在は取り組んでいることはなく、今後取り組む予定はない	無回答
2016年全体	(n=1105)	32.4	45.6	19.5	2.5
大短進学率別	95%以上 (n=221)	38.9	52.9	5.9	2.3
	70~95%未満 (n=304)	34.9	48.0	14.8	2.3
	40~70%未満 (n=210)	31.0	49.5	17.6	1.9
	40%未満 (n=358)	26.8	37.2	32.7	3.4

#### フリーコメント 5

##### 高大接続観点での具体的な改革内容

- 全校AL導入、ルーブリック評価、総合的な学習の体系化。(富山県/私立/普通科)
- ALの導入(全授業・全教員)。コンピテンシーの明確化と評価の仕組みの策定。(千葉県/私立/普通科)

- 総合学習で地方創生をテーマとした探究活動「プロジェクト学習」。(宮崎県/私立/普通科)
- 知識構成型ジグソー法による授業改善、言語技術教育の推進等。(鳥取県/県立/普通科)
- ディスカッションを中心とした思考力、判断力、表現力を伸ばす取り組みを、キャリア教

- 育や課題学習、授業の中に取り入れている。(石川県/県立/普通科)
- 教育課程を身につけるべき力の観点から、全体の構成をとらえ直すとともに、個々の科目内容について研究を進めている。(神奈川県/県立/総合学科)

ALの視点に立った授業改善の取り組みは？

授業改善が加速するも、基礎学力は伸びない？

4校に1校が学校全体で実施  
試行錯誤、不安、疑問の声も…

アクティブラーニング(以下AL)の視点(主体的・対話的で深い学び)による授業改善への取り組みについてたずねたところ(図17)、学校・教科・教員個人のいずれかで導入しているのは93%であった。内訳は「学校全体で取り組んでいる」25%、「教科で取り組んでいる」17%と、組織的に取り組んでいる割合が4割を占めた。大短進学率別にみると、40%未満校を除き、導入率は9割を超えており、進学率上位ほど導入率は高い。

取り組み実践が進む一方、「ALを行うことが目的化している」「型・手法から入っている」「グループワークALと勘違いしている」など、ALの本質から離れているのではないかと、疑問や不安の声は多く、試行錯誤しながら取り組んでいる様子が見られる(フリーコメント6)。

期待する資質・能力に差  
評価の取り組みは1割弱

ALの視点による授業改善はどん

図17 アクティブラーニングの視点による授業改善に取り組んでいるか (全体/単一回答)

	(%)	導入・計			非導入・計		無回答	導入・計	非導入・計
		学校全体で取り組んでいる	学校全体での取り組みではなく、教科で取り組んでいる	学校や教科など組織的な取り組みではなく、教員個人で取り組んでいる	取り組んでいる	取り組み状況を把握できていない			
2016年全体 (n=1105)		24.5	17.2	51.1	3.2	-0.4	92.9	6.8	
大短進学率別	95%以上 (n=221)	24.0	20.8	52.9		-0.5	97.7	1.8	
	70~95%未満 (n=304)	25.7	12.8	56.6	2.0	-0.3	95.1	4.6	
	40~70%未満 (n=210)	28.1	17.6	46.7	4.8	-2.9	92.4	7.6	
	40%未満 (n=358)	22.1	18.4	48.3	4.7	-5.9	88.8	10.6	

フリーコメント 6

アクティブラーニングの視点による授業改善の実施における疑問や不安

- 準備に手間と時間がかかる。(千葉県/私立/普通科)
- 40名近くの生徒、10グループを把握するのは困難。(群馬県/県立/普通科)
- ひとつの手法・形式を考えて実施しても、数回繰り返すと生徒間にマンネリ感が生じてくる。(石川県/県立/普通科)
- ALと調べ学習、グループワークの違いが分かりにくい。多くの人が調べ学習やグループワークをするとALになると間違えた認識をしている。(島根県/県立/普通科)
- 一見良いムードをもつが、本当に学力向上や力のつく授業になるかは大いに疑問。一部の力のある、積極性のある生徒のための授業にならないか。(福島県/県立/普通科)
- ALのもととなる基本的な知識や考え方をしっかり身につけさせることの方が重要。ALを強調しすぎると、基礎力不足なのに、応用ばかりやろうとし無駄に終わる。(福島県/県立/普通科)
- 本校の生徒のレベルと大学入試との関連を考えると、基礎的な学力(知識、技能)の向上をはかることが優先されるべきであり、全ての授業をALで行うことは、かつての「ゆとり教育」の二の舞になりかねない危惧を抱いている。(群馬県/県立/普通科)
- 大学入試に向けた指導との関連性が強く感じられない。(埼玉県/私立/普通科)
- ALを深い学びととらえると、進学校で今までやっている授業はほとんどそれにつながるのではないかと思う。読書を通して考える、意見交換するなどもある。(静岡県/県立/普通科)

- ALは、生徒が主体的に授業に取り組むことで深い学びにつながるという指導方法の1つであると考えているが、最近の風潮では、ALで教えるということが目標になっている感があり、違和感を覚える。(高知県/県立/普通科)
- ALを表面的にとらえないことが大切で、従前からの教育活動にもたくさんAL的な要素があることに気づくことが大切だと思っています。(長崎県/県立/普通科)
- 何か特別なことを行わなければALにならないと判断され、物事の本質が理解されない不安がある。一斉授業でもALが成り立っている場合もある。(栃木県/県立/普通科)
- 教科による特性があるため、なかなか教科を越えて学校全体の研修になりにくい。加えて、ALの導入方法ではなく指導目標が達成されたかどうかの評価について十分に検討されていない。(広島県/県立/普通科)
- 本校におけるALの目的を定める必要がある。基礎学力の定着のためにALが必要という立場と、基礎学力が身についた上でしかALは成立しないという立場があり、全く歩み寄りがみられない。(福岡県/私立/普通科)
- 生徒の学力、学校の施設、設備、予算、人材に大きく影響される。理科の授業例を読んだことがあるが、真面目に取り組めば現在の教科書は終わらない。ある程度の知識量低下は不可避と思われる。大学入試の改革と共に現在のバランスが大切になるのでは。(新潟県/私立/普通科)
- 基礎、基本の軽視にならないか。進度確保と時間不足の不整合性。(長崎県/県立/普通科)

な資質・能力の向上につながると思  
うかをたずねてみたところ(図18)、ト  
ップは「コミュニケーションスキルの向  
上」63%、僅差で「主体性・多様性・協  
働性の向上」62%。3位「思考力・判  
断力・表現力の向上」57%、4位「学  
びに向かう姿勢の向上」47%と、上位  
は4割を超える一方、「基礎的な学力  
の向上」は19%、「キャリア形成能力」  
は8%と大きな開きが見られる結果  
となった。

ALによる基礎的学力の向上に関  
しては、「本当に学力向上や力のつく  
授業になるのか」「基礎・基本の軽視  
にならないか」など(フリーコメント  
6)からも基礎学力習得への疑問が  
感じられ、入試対応への懸念の他、  
「教科書が終わらない」「基礎学力が  
ある前提で実施」などの意見がある。

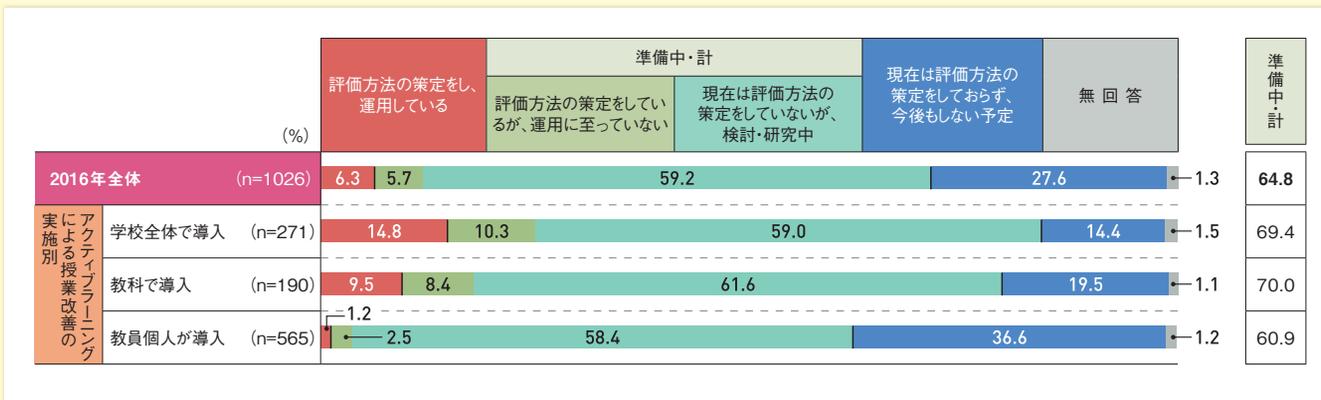
ALの視点による授業改善の評価  
の実施状況をたずねた(図19)。「評  
価方法の策定をし、運用している」は  
6%。検討・研究中は59%であり、策  
定したが運用に至っていないまで合  
せると6割強が準備中であった。AL  
の視点による授業改善の実施別に  
みると、「学校全体で導入」など実施単  
位が大きいほど運用や準備が進んで  
いることがわかる。

図18 アクティブラーニングの視点による授業改善はどんな力の向上につながると思うか (全体/複数回答)



※「2016年全体」の降順

図19 アクティブラーニングの視点による授業改善の評価の実施状況 (アクティブラーニングによる授業改善実施ベース/単一回答)



グローバル化、ICT教育への取り組み状況は？

グローバル化への意識は高まる。ICTの推進はインフラが課題

進学校で進むグローバル対応  
ICTの取り組みは個人頼みか

今後さらに進むと予想される社会のグローバル化について、高校教育に影響があると思うかを5段階でたずねてみた(図20)。「影響がある」48%、「どちらか」というと影響がある」44%を合わせ、92%が「影響がある」としており、14年よりもその割合が増えた。

では、グローバル化を意識した教育に取り組んでいるのだろうか(図21)。「現在取り組んでいる」は34%と、14年と比べて取り組んでいる学校は増加した。大短進学率が高いほど導入が進んでおり、進学率95%以上の高校では5割を超えている。

ICTの導入・実施状況についてたずねた(図22)。Wi-Fiが「校内のほぼ全域で利用可能」は12%、一部の教室・エリアで利用可能」は37%と、全体の49%が利用可能であった。ICTを活用した授業の実施状況を見ると、「教員が個人的に実施している」が71%と、学校や学年など組織での取り組みよりも教員個人での取り組みに依存気味な状況がうかがえる。

図20 社会のグローバル化は高校教育に影響があるか (全体/単一回答)

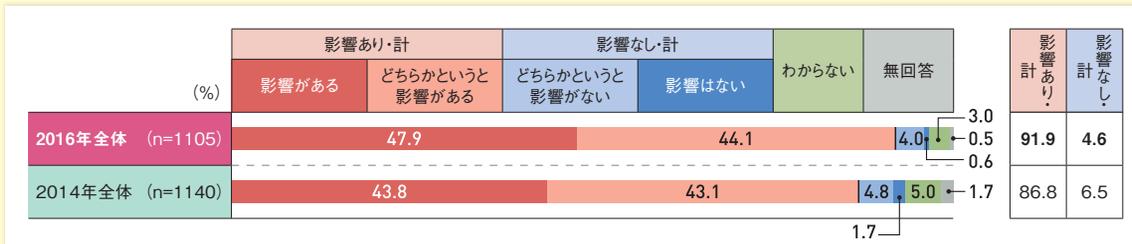


図21 グローバル化を意識した教育に取り組んでいるか (全体/単一回答)

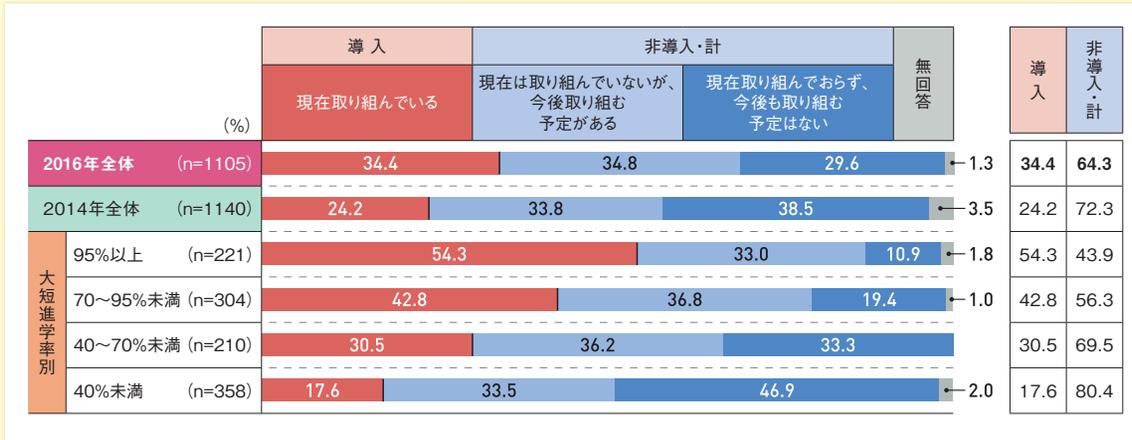


図22 ICTの導入・実施状況 (全体/各単一回答)

